

文化財防火デーに伴う 訓練が実施されました

毎年1月26日は、「文化財防火デー」です。昭和24年1月26日に現存する世界最古の木造建築である法隆寺金堂から出火した火災によって、壁に描かれた大半の仏画が焼損しました。文化財防火デーは、火災などの災害から文化財を守り、文化財愛護の意識高揚を図るため、昭和30年に制定されました。昭和30年の第1回文化財防火デー以来、毎年1月26日の前後には文化財の所有者や住民・消防署・消防団・教育委員会などが連携協力しながら全国各地で文化財の防火訓練が実施されています。

有田川町においても毎年文化財防火デーに伴う火災想定訓練が行われており、去る1月21日(日)には雨錫寺(杉野原)と御霊神社(庄)において実施されました。本殿が町指定文化財になっている御霊神社では、神社関係者や消防署・地元消防団ら約50人が参加し、周辺の林で焚き火をしていたところ、延焼拡大したという状況想定の下、初期消火や御神物の搬出想定訓練、消防署・消防団員の方々による放水訓練が行われました。

日本に残る文化財建造物の多くは木造であり、町内に

残る文化財には屋根に檜皮や茅といった植物素材を用いたものも多く存在しています。また、絵画や仏像なども木や紙、布などの燃えやすい材質により造られているものが多く、文化財の多くは常に火災の危険にさらされています。

1・2月は、1年の中でも最も火災が発生しやすい時期です。文化財所有者の皆さまには、常日頃から防火・防犯に対し御尽力をいただいておりますが、有事の際には被害を最小限に留めるためにも、関係者の連携を図る消火訓練が必要です。現在に伝わる文化財は、これまで幾多の災害を乗り越えながら、先人たちが必死に守り伝えてきたものです。今後とも町の宝である文化財を次世代に継承していくためには、防火意識を高めるとともに地元住民や消防関係者の連携を強化していくことが大切です。



雨錫寺



御霊神社